

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第19号
平成23年8月19日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしいがん医療

私たちは、一人でも多くの千葉県民に、
質の高いがん治療を提供します。

千葉県病院群の臨床研修制度

千葉県がんセンター診療部長 山本 宏



第2次大戦後、臨床医育成のためインターン制度の導入や卒後臨床研修制度の採用が試みられましたが、制度の欠陥などにより継続的なものにはなりません。そういった経過の中

で大学病院中心の卒後研修が一般化し、専門的研究に力点をおく臨床軽視の考え方が広がりました。そこで、厚労省は平成16年に総合的臨床医としての診療能力の育成を目的とした卒後初期臨床研修制度の義務化を開始しました。この制度発足に合わせて、千葉県では複数の県立病院を中心とした医療施設の複合体（千葉県がんセンターが基幹病院）として初期研修医を受け入れる体制を作りました。プログラムは地域医療の中核あるいは高度先進医療を取り入れた専門領域を担う病院をローテートするものです。各病院のスタッフとの共同作業、特性に応じて来院する様々な患者さんとのコミュニケーションによって、人間関係の多様性を学び、豊かな人間性を育むことも大きな目標となります。

私は現在この病院群の臨床研修プログラム委員長であり、実務の元締め役を担当しています。各病院の指導医、事務スタッフの長年の尽力によりここ3年の採用状況ではフルマッチという最高の実績が得られています。この臨床研修制度が医師の偏在の元凶であるとする考え方もありますが、医学部卒業生の受け入れ窓口が広がり、選択の自由度が広がった結果であります。制度が元凶ではなく東京への一極集中という社会的状況の方が大きな要因だと思います。また、2年目の研修医を見ると、以前の研修を受けていない医師に比べ様々な状況に適切に対応する能力が高いと思います。ある程度は制度の目的にあった結果が得られていると実感します。

臨床研修に携わるスタッフとして、千葉県病院群に所属した多くの研修医が次の段階である千葉県病院群後期レジデントに移行して千葉県の医療に末永く関わってもらいたいと強く思っています。

臨床の現場から

今の画像診断部

画像診断部長 高野英行

画 画像診断部は常勤医師2名、診療放射線技師10名（プラス再任用1名）で診療を行っています。がんセンター画像診断部の特徴は、全ての患者さんが、何らかの画像を撮影するという事です。全患者さんが必ず通る場所が、画像診断部なのです。

全ての固形腫瘍において、手術後や化学療法の効果判定に、必ず画像診断が行われます。また、白血病などの治療上のトラブルにおいても必ず行われます。そのため、がんセンターの外来患者数、入院患者数、化学療法や治験の数も増加していますが、その数以上に増加するのが、画像診断なのです。

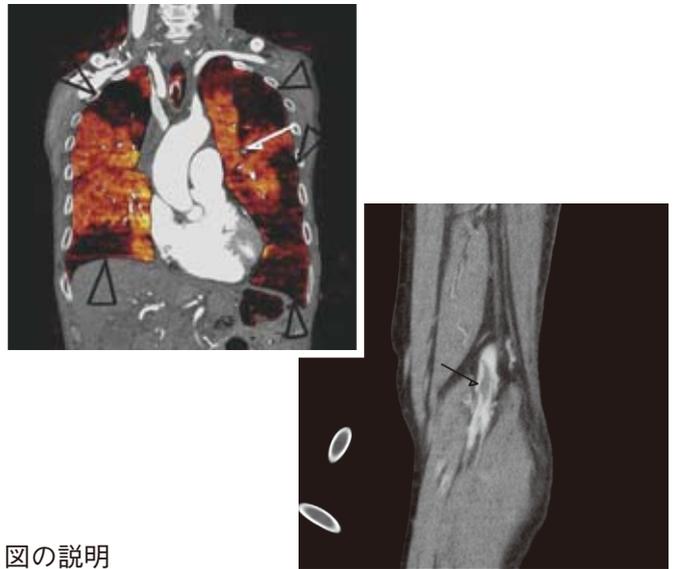
スタッフ数は10年前と変わりませんが、検査数は毎年増加し、10年前の約2.5倍（CT：平成12年約6500件→平成22年約16500件、MRI：平成12年度約2400件→平成22年度約5500件）に達します。CT3台、MRI2台と機械を増やし、機械自体も進歩もしていますが、患者さん一人一人を検査台に乗せ、位置を調整し、それぞれに配慮した検査をしなければなりません。画像診断を受ける患者さんのニーズに応えるためには、今後の人員増や新規機種導入が不可欠です。

また、一回当りの検査枚数の増加は10倍以上です（CTは、以前は10mmスライスで肝臓だけあったが、今は、0.67mmで胸部から骨盤まで、撮影）。フィルム出力や

読影は不可能なレベルに達し、PACSというフィルムレス環境を電子カルテに先駆け導入しました。

新しいトピックスとしては、256列相当のシーメンス社CTの導入です。それにより、心臓冠動脈の検査も可能です。肺塞栓の診断は、核医学から、パーフュージョンCTに移行しています。通常の造影剤で行え、下肢静脈血栓まで同時に検査が可能です。これにより、術前d-ダイマー上昇患者のCT検査が急増しています。

別ソフトウェアを導入できれば、脳血流の評価もでき、MRIよりも早く、梗塞になる前の脳の血流低下の診断が可能になります。



図の説明

肺のパーフュージョンCT：肺動脈血流の低下部位（矢頭）と血栓（矢印）の評価が同時にできる。

下肢静脈血栓CT：膝窩静脈に大きな血栓（矢印）を認める。



千葉県がんセンターにおける 看護局教育計画の紹介

千葉県がんセンター看護局では、「生きる力と希望」「自己決定の尊重」「QOLの向上」「人間性豊かな看護」を理念として、質の高いがん看護を提供しています。看護師の教育体制はクリニカルラダーに則った教育計画を計画し臨床実践能力の高い看護師の育成を目指しています。平成22年度からは厚生労働省から示された新人看護職員卒後研修制度ガイドラインを受け、がんセンターの継続教育に新人看護師卒後研修を組み込み再構成しました。その中には、自部署だけでなく他部署における看護を知るといった目的で院内留学制度なども計画しています。また、がん看護に欠かせない症状マネジメントについて、専門看護師・認定看護師の企画による研修をシリーズで実施しています。

研究の現場から

着任のご挨拶

研究局 実験動物研究室 若林 雄一

平

成 23年4月1付けで本研究局実験動物研究室に着任いたしました若林と申します。私の着任までは発生工学研究室という名称でしたが、私の着任に伴い、実験動物研究室と名称変更されています。本研究局動物実験施設で行われています動物実験の支援、および実験動物研究室として独自の研究も行っています。

現在、研究局動物実験施設は4飼育室に各種の移植用マウス、遺伝子改変マウスなど合計、約500ケージ態勢で運営されています。移植用マウスとしては、古くから用いられてきた nude マウスを始め、Scid マウス、RAG マウスを用いた実験系が稼働しています。また、近年、ヒトの血液を作らせることができるマウスが登場したということで、ヒト化マウス等の言葉で話題にもなった NOG マウスの受け入れ態勢も整えられています。NOG マウスを用いることにより、今後、従来用いられてきた nude、Scid、RAG マウスには生着が困難であった細胞

の移植が容易になり、各種の移植実験、創薬へ向けた化合物のテスト等に広く用いられることが期待されます。

遺伝子改変マウスとしては、神経芽腫モデルマウスである MYCN トランスジェニックマウス、当研究局独自に作製した Unc5D ノックアウトマウス、Bmcc1 ノックアウトマウス、等の各種のマウスが飼育され、精力的に研究が行われています。私自身、マウスを用いた各種の発がん実験を行うことを主な仕事としてきました。今後は研究局内で行われるこれらの遺伝子改変マウスを用いた各種の発がん実験の支援も行っていきたいと考えています。

以上のように各種のマウスが飼育され、様々なプロジェクトが進行中の研究局動物実験施設ですが、建築より約40年が経過し、老朽化が進み、手狭となっていることは否めません。本センター研究局における動物実験をさらに発展、充実させるためにも新センター建築の際には、何卒ご高配を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。着任のご挨拶と代えさせていただきます。



「がん予防展」「がん講演会」「県民公開セミナー」

「千葉日報がん連載記事」のお知らせ

がん予防展

日時：9月10日（土）・11日（日）

場所：イオン津田沼 ショッピングセンター
（習志野市、新京成電鉄「新津田沼駅」前
JR津田沼駅より徒歩5分）

問い合わせ先：千葉県健康福祉部健康づくり支援課
（電話：043-223-2686） 参加無料

がん講演会

日時：8月21日（日）12時30分より

場所：京葉銀行文化プラザ3F・音楽ホール
（千葉市中央区、JR千葉駅より徒歩3分）

演者：中川 恵一（東京大学医学部附属病院・放射線科、緩和ケア診療部長）

加藤 大基（帝京大学医学部附属病院・放射線科）

市立船橋高校吹奏楽部によるコンサート

問い合わせ先：千葉県健康福祉部健康づくり支援課
参加無料

定員：先着700名

県民公開セミナー

「ここがすごい！最新の抗がん剤事情」

日時：10月15日（土）午後1時より

場所：京葉銀行文化プラザ6F・会議室
（千葉市中央区、JR千葉駅より徒歩3分）

演者：千葉県がんセンター各科部長・専門看護師等
参加無料

定員：380名（当日先着順）

問い合わせ先：千葉県がんセンター 医事経営課

千葉日報がん連載記事

がん制庄月間である9月に、千葉日報紙に「がん患者支援体制最前線」をテーマに最新のがん診療についての連載記事が掲載されます。千葉県がんセンターの各科専門医、スタッフらが、がん医療への取り組みについて解説を致します。ぜひご期待ください。





千葉県がんセンター H23年度 看護局 専門・認定看護師紹介

千葉県がんセンターでは、多様化するがん治療に伴う患者さんの不安を軽減し患者さんのQOLの改善を図るため、12名の専門看護師・認定看護師が様々な専門分野で活動しています。本号と次号ではこれらの専門看護師・認定看護師を順次紹介いたします。



笠谷 美保



西 育子

がん看護専門看護師

サポートケア室に所属する1名は、がんサポートチーム専従として、多職種で協働しよりよいケアの向上を目指しています。
病棟に所属する1名は、看護実践の向上を図るための直接ケアと調整、教育、研究補助などを行っています。



斎藤 亜希

緩和ケア認定看護師

サポートケア室に所属し、サポート外来をはじめとし、患者さんご家族へ早期からの切れ目のない緩和ケアを提供できるよう支援しています。



山田 みつぐ

がん化学療法看護 認定看護師

看護部に所属し、治療の意思決定や投与管理、症状マネジメントや患者教育を通じて、患者さんのQOL実現を目指すために組織横断的に活動しています。

感染管理認定看護師

専従1名(医療安全管理室)、兼任1名(病棟所属)の2名で活動をしています。院内感染対策チームの主力メンバーとして、患者さんが安心してがん医療を受けられ、また、職員が安心して働けるよう、感染予防のための啓発、感染症発生時の早期対応などに取り組んでいます。職員が私たちの顔を見なくても、患者さん2手洗い(接触前後)ができるように力を注いでいます。



前田 佐知子



石橋 聖子

がんセンターニュース バックナンバーのお知らせ

千葉県がんセンターニュースは、当センターが独自に発行している機関紙です。がんの最先端技術や最新の治療法の研究など様々な情報を皆様にお届けしています。

これまで「臨床の現場」では、がんの治療における当センター独自の診断・治療法を、また「研究の現場」では、臨床に直結するがんの最新研究を、さらに「看護の現場」では患者さんが安心して治療をうけていただけるような様々な看護サポートについてそれぞれ紹介してきました。バックナンバーはホームページ上で閲覧可能です。また、ホームページには、当センターの診療内容、診療を支える部門の紹介、受診方法などについて、いろいろな情報をわかりやすく掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ホームページアドレスは <http://www.chiba-cc.jp/index.html>。または、

がんセンターニュース

でWeb 検索



ご交通案内の



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車



JR鎌取駅から 所要時間:約13分

千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車



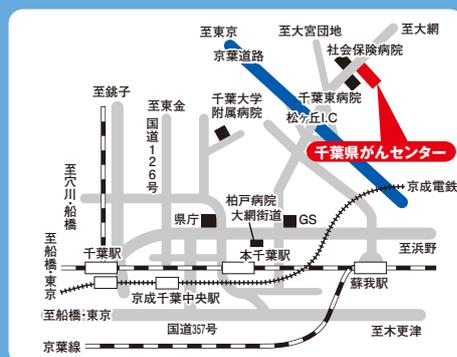
JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車



松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.chiba-cc.jp/>